

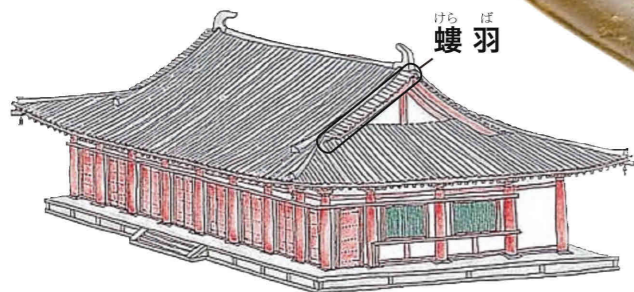
日本一の巨大瓦！？

これは、奈良県桜井市にある山田寺跡から出土した瓦です。今年3月に、国の重要文化財に指定されました。一見すると軒平瓦のようですが、全長101.6cm、重さ34.0kgと余りにも巨大であることや、カーブが大きいことなどから、「^{けらば}螻羽瓦」ではないかと考えています。

螻羽瓦は、屋根の妻側の端（螻羽）に葺き並べられる瓦です。螻羽は屋根の中でも風雨にさらされやすい場所ですから、重量のある瓦をわざわざつくったのでしょう。ところが、全国を見渡しても古代の螻羽瓦の出土例はそう多くありませんし、このような大きさのものもみあたりません。古代の建物では、螻羽瓦を用いずに、普通サイズの軒瓦や丸瓦・平瓦を組み合わせて螻羽を覆うことが一般的であったと推測されます。

長さも重さも軒平瓦の3倍近い、これほど巨大な瓦をつくる技術は相当なものでしょう。山田寺造営にたずさわった人々の意気込みが伝わってくると思いませんか？

(都城発掘調査部 中川あや)



写真は瓦当(がとう) 横幅36.5cm)実寸大